



羅針盤

発行:サイクラーズ株式会社
(旧名 東港金属グループ)
編集:サイクラーズ株式会社 東京事務所
東京都品川区南大井6-26-3
大森ベルポートD館 8F
電話: 03-6410-8797
URL : <https://www.cyclers.co.jp/>

Market Forecasts by Y. san - 7月 -

6月予測の自己評価 鉄スクラップ; × 銅; × アルミ; ○

鉄スクラップ →

6月は指標となる東京製鉄宇都宮価格が47,000円/トンでスタート。一時2,000円/トン上げましたが、48,500円/トンで終わりました。7月は円安進行、トルコへの輸出価格下落、国内メーカーの夏季休暇等により横ばいと思われます。

銅 →

6月はLME8,000ドル/トン台、国内銅建値1,180,000円/トンからスタート。円安の影響もあり23日には国内銅建値1,280,000円/トンまで上昇。最終的には1,260,000円/トン。LME8,260ドル/トンでした。7月に関しては市中の発生も少ないため上がると思われる。

アルミ →

6月はLME2,250ドル/トンから始まり、最終的には2,140ドル/トン台と多少下がりました。7月に関しては自動車生産・販売の回復遅れの改善、解体案件不足などを考えると横ばいでしょう。

産業廃棄物

都内23区の一般廃の搬入価格が10月に改正予定。この時期に産廃も値上げに踏み切る業者が多いと思われますが、ただ値上げをするだけではなく、リサイクル方法や分別によるコスト削減等様々な提案が会社存続のカギになると思われます。有価価値がある金属や製品の評価方法が問われるようになるでしょう。

Topics

我が国の食品ロス量の削減目標と推移

Series

きつかったけど最高の3年間 Part 2



営業部 高見澤 一輝

「持続可能な開発目標」(SDGs:Sustainable Development Goals) ターゲットの1つとして、2030年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させることが盛り込まれております。今回は我が国の食品ロス(本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品)の発生量の推移について本年6月9日に環境省が発表した「我が国の食品ロス発生量の推計値(令和3年度)」を基に紹介させていただきます。

我が国では、食品循環資源の再生利用等(食品廃棄物等の発生の抑制を含む。)を推進するため、「食品リサイクル法」に基づく国、自治体、事業者等による取組とともに、特に食品ロスについては「食品ロスの削減の推進に関する法律」に基づく食品ロス削減の取組が国民運動として進められており、家庭系及び事業系の食品ロスを2030年度までに2000年度比で半減するとの目標が定められています。

この度、事業系食品ロスについては食品リサイクル法に基づく事業者からの報告等、家庭系食品ロスについては市町村に対する実態調査等を基に纏められ、2021年度の食品ロスの発生量は約523万トン(うち家庭系約244万トン、事業系約279万トン)と推計されました。



事業系と家庭系の内訳は、事業系では2000年度(547万トン)比で、2030年度までに半減させ273万トンが目標です。2012年度以降、全体では減少傾向に推移しております。

家庭系では、2000年度(433万トン)比で、2030年度までに半減させ216万トンが目標です。家庭からの食品ロスでは、料理の作りすぎなどで残る「食べ残し」、野菜の皮や茎等で、食べられる部位までも切捨ててしまう「過剰除去」、未開封のまま食べずに捨てる「直接廃棄」があります。2012年度以降の全体では減少傾向ですが、近年は過剰除去、食べ残しが減少している一方、直接廃棄は横ばいです。



出典及び加工した資料: 環境省ホームページ https://www.env.go.jp/press/press_01689.html

編集メモ * 今号のトピックスは「我が国の食品ロス量の削減目標と推移」を紹介しました。TVコマーシャルでお馴染みの、一粒も残さずに食べなさい。に続く、その一粒も食べられない人が世界には大勢いることを思うと、この事実を「現状仕方ない」と、置かれた環境の幸、不幸で済ますのは残酷なことです。日本中の食品ロス削減が、形を変えて食品の貧困に回せたらと考えると、行政を筆頭に、国中が少しでも食べ残し、廃棄を少なくすることに意識を持つことが一番です。飽食の我が国でさえ、その日の食を日々心配しながら暮らす方々もいるのです。まず、未開封のまま食べずに捨てる「直接廃棄」量ゼロを目指す意識をもって生活しましょう。埋立処分場の不足も改善されますね。

今回は高校時代の野球部合宿についてのpart2です。地獄の冬練が終わり、春の大会から最後の4か月間の出来事をお話します。地獄の走り込み、筋トレ期間が終わり、迎えた春の東京都大会。この大会は甲子園にこそつながらないものの、夏の大会のシード校を決めるための大事な大会です。

練習の甲斐あってか順調に勝ち進み、迎えた準々決勝。相手は強豪日大三高。この年の三高は甲子園優勝の代の入れ替わりの年で、春の甲子園にも出ており、錚々たるメンバーが集っていました。一方私たちが地獄の練習を乗り越えたので「負けるはずがない」と強く思っていました。しかし野球はそんなに甘くはなかったです。結果は13-0の5回コールド負け。ヒットはおろかフォアボールの1出塁のみ。屈辱的な負けで実力の差は明らかでした。この大敗を決して忘れまいとグラウンドの得点板にこの時のスコアを書き、練習中にこの悔しい思いを決して忘れることの無いように毎日練習に励みました。

月日は流れ、いよいよ東京都大会の抽選の時、通常キャプテンや寮長などが行くのですが、私は監督に自ら申し出て、抽選担当を引受けることになりました。なんか良いクジが引けるような気がしたからです。が、結果はベスト16で早稲田実業、準々決勝で八王子高校。準決勝で日大三高。決勝で日大鶴が丘とシード校の中で一番強豪校と対戦するキツイ山を引いてしまいました(笑) でもある意味良いクジ運でした。何とか順調に勝ち進み迎えた準決勝、相手は3か月前に13-0で大敗していた日大三高。神宮球場にいるほとんどの人が三高が勝つだろうと思っていたことでしょう。後からみんな口を揃えて言っていたのは春大敗したのに何故か「今日は勝てるわ」と3年生32人全員が思っていたようでした。

試合が始まり、初回に先制点を取られ厳しい展開に。何とか1点返して追いついた次の回4点取られ5-1になりました。嫌なムードが流れる中、7回表4番バッターのホームランをきっかけに打線がつながり5-3。なおも2アウト2、3塁で2番バッターの同点2点タイムリーで5-5。三高は右のエースを下ろし左ピッチャーに変更。わが校は、続く3番のキャプテンが変わったばかりのピッチャーの初球をとらえセンターオーバーを打ち7-5と逆転。9回にも5点を挙げ、終わってみれば12-6のダブルスコアになっており、14年ぶりの決勝進出となりました。

決勝戦は、現巨人で活躍の高橋優貴が9回裏に打たれてサヨナラで負けてしまいましたが、この準決勝の三高戦は野球をやってきた中で間違いなく1番の試合でしたし、3年間積み重ねた練習が結晶となった試合だと思います。入学した当初は練習での上下関係が厳しく、毎日やめようと思っていたのですが、今活躍してる数々のプロ野球選手と対戦することが出来最高の仲間と出会え、思えば本当に素晴らしい3年間だったと思います。ドラえもんではありませんが、タイムマシンがあれば結果が同じでもう一度戻りたいと思います。



最高の仲間たちと私